2025年総会報告

自然観察ちば 2025年2月11日

２０２４年度事業実績

１．総会

2024年2月12日（月・祝）、4年ぶりに、総会、特別講演、オプション観察会、懇親会と、フルセットで実施、総会と特別講演は千葉市生涯学習センター（大研修室）で実施した。出席者48名。議長は勝股政雄氏。全議案（2023年度事業報告・会計報告、2024年度事業計画・予算、役員改選）が承認された。

特別講演は、大島健夫氏（千葉県生物多様性センター）で、テーマは「里山の希少種と外来種」。

オプション観察会は、園生の森で太田慶子氏の案内により25名が参加。

懇親会は千葉公園内のボートハウスレストラン「ハーモニー」で、三嶋秀恒氏進行で25名が参加。

２．創立４０周年記念事業

当会は1983年9月に発足し、2023年に創立40周年となった。コロナ禍もあり一年遅れとなったが、40周年記念事業として、以下を実施した。

記念講演会：宮下直氏（東京大学・大学院農学生命科学研究科教授）。テーマは「生物多様性と人の関係を問い直す」。参加者42名。千葉市生涯学習センター（大研修室）。

しおかぜ（別冊）特集号：40周年を振り返り、伊藤代表を含む5名の会員諸氏から投稿、ならびに40周年の主な出来事を時系列で掲載。9月1日発行。

３．ホームページの改訂

自然観察ちばHPは 2009年から15年間 ぱそこん119に掲載依頼してきた。昨年 新HPを外部依頼により立上げWordPressで改定し、2025年1月から閲覧できるようにしている。毎月の更新作業は会員の中から数人に依頼をして運営開始。旧HPはlolipopサーバーに残しており引き続き閲覧可能。掲載作業はワードレベルの作業で編集できるので会員からの参加協力をお願いしたい。

観察会などの報告原稿は 効率を検討し送信先を一本化する。

送信先アドレス：genkou@sizen-chiba.lolipop.jp

４．昭和の森

（１）昭和の森定例観察会 第2日曜日

実施回数 実施 11回、中止 0回

参加者 208名（大人130名 子ども 78名）指導員 106名

＜振り返り＞

テーマに子どもが大好きな虫やドングリを入れると参加希望者が多いが、植物だけのテーマだと少ない傾向がみられる。申し込みが早い順番で締め切るので、毎回1日に申し込みをしてくれる親子がいて、観察会を楽しんでくれているのはうれしい。8月はお盆と重なり、参加者が少なかったのは残念だった。

（２）昭和の森親子田んぼ教室

実施回数 3回

参加者 43名（大人 20名 子ども 23名）指導員 13名

＜振り返り＞

参加者は、田植えは作業日和りだったが、草取り、稲刈りは猛暑の中だったので、水分補給を呼びかけての実施だった。それでも作業を頑張り、本命の生き物調べをたいへん楽しんでいた。

（３）昭和の森カタクリ特別観察会

実施回数 実施 1日、中止 2日

参加者 150名 指導員 4名

＜振り返り＞

カタクリ観察会 3 日間のうち 2 日は雨の為実施できず、3 月 24 日だけの実施だった。当日の開花は 3 月に入っての低温で、力なく咲いているのが 30 輪ぐらいでしょうか。来訪者にはカタクリの話と一緒に、トリカブトやキツネノカミソリの葉っぱ、またビオトープ田んぼで捕獲したニホンアカガエルのオタマジャクシやヤゴ、メダカ、カワニナなども観てもらった。来訪者は、毎年カタクリの花を観るのを楽しみに来ている常連の人が多く、「また天気の良い日に観にきます」などと言われ、後にする人が多かった。

５．大草谷津田いきものの里自然観察会 第３日曜日

実施回数 実施 10回、中止 1回

参加者 171名（大人 81名 子ども 90名）指導員 59名

＜振り返り＞

8月を除く11か月のうち（7月のみ9時30分から11時）、1月を除く10回実施した。雨による中止は1回だけで、予定通りの観察会が行えた。今年はたくさんの指導員が参加してくれたので、大草の魅力を回の中でも広められたのではないかと思う。ただ、何が影響しているのか確かなことはわからないが、10月から参加者が突然少なくなってしまい、少し不安である。千葉市と相談しながら募集の在り方を改善したい。

６．東葛しぜん観察会

（１）東葛一般観察会

実施回数 実施 6回、中止 4回

参 加 者 140名（大人 112名 子ども 28名）指導員 88名

＜振り返り＞

新型コロナウイルス感染症の流行は5月に5類に移行し収束とみられ、通常の活動が出来る様になったとの認識で コロナ禍前と同様の活動を行ってきた。4件は雨天中止で残念だった。新規コースとして、大津川緑道～粟野の森での観察会、ならびに大畔の森での夕涼み観察会を実施できた。

（２）東葛研修会

実施回数 研修会 4回実施

参加者 指導員 80名

＜振り返り＞

研修会を合計4回開催した。具体的には、新会員向け研修2回、真鶴・箱根での一泊バス研修会（24名参加で楽しく開催）、および「小笠原の自然」の発表会（12月開催）を実施した。

（３）パークプロジェクト（ラリー、講座・小学校校外学習）

実施回数 夏の自然たんけんラリー、自然観察おもしろ講座 5回、小学校校外学習 5回

参 加 者 ラリー 38名（大人 17名 子ども 21名）指導員 15名

講座 108名（大人 70名 子ども 38名）指導員 28名

校外学習参加者 子ども 441名 指導員 43名

＜振り返り＞

21世紀の森と広場（松戸市）との共催事業をパークプロジェクトとして進めており、「クズの繊維で織物づくり」・「森と水辺の生きものさがし」など自然観察講座を5回開催した。校外学習は松戸市内および都内の小学校からの依頼をパークセンターが受けて学年ごとで実施するため人数が多く、松戸市青少年会館からの依頼講座を含む。夏休み自然たんけんラリーで6ヵ所に看板を立て、自然を体験する方式で開催した。

７．行政関連

（１）千葉市ふれあい観察会（千葉市環境保全課自然保護対策室）

実施回数 1回、中止1回

参加者 12名（大人 8名 子ども 4名）指導員 5名

＜振り返り＞

5月は検見川浜（人工海浜）でコアジサシと浜辺の生き物をテーマに実施し、参加者は普段接する機会の少

ない海浜生物の観察に熱中していた。9月は小山町谷津田（緑区）で、地元の関係者と協力して、谷津田の生き物の多様性を実感できるプログラムを用意したが、悪天候で中止となり残念だった。

（２）稲毛海浜公園自然観察会（千葉市中央・美浜公園緑地事務所）

実施回数 4回

参加者 77名（大人 45名 子ども 32名）指導員 22名

＜振り返り＞

周囲を大規模団地に囲まれた埋立地の公園であるが、地域の潜在自然植生であるシイ・カシ林をメインとし、人工海浜も隣接して多様な自然に恵まれている。参加者は親子連れがほとんどなことから毎回テーマに沿った体験型の自然観察をメインとし、参加者の満足度は高かった。

（３）成田市自然観察会（成田市環境計画課）

実施回数 3回

参加者 54名（大人 38名 子ども 16名）指導員 21名

＜振り返り＞

今年から年3回となったが、3月は成田山周辺で歴史と一体となった自然観察、7月は夏休みの親子に特化した生き物教室、12月は冬鳥の観察とバランスのよい内容で実施できた。これまで遠隔地の指導員の支援が必要であったが、次第に成田市及び近隣の指導員が中心となって運営する体制に移行しつつある。

（４）船橋自然散策会（船橋市環境政策課）

実施回数 2回

参加者 45名（大人 22名 子ども 23名）指導員 6名

＜振り返り＞

小室地区と藤原・丸山地区で2回実施した。小学生と保護者を対象にして、遊び要素（ビンゴカード、笹・葦舟、花の色つけ、どんぐりパチンコ、草花ブレスレットなど）を加えて行った。一年前に小室地区で実施した際に小雨予報で直前キャンセル多く参加者が少なく残念だったので、リベンジで今回の春は再度小室地区で実施した。市が行った参加者へのアンケートでは、春、秋ともに満足度は高く、再度参加希望の声も多かった。

（５）花島公園観察会（千葉市花見川・稲毛公園緑地事務所）

実施回数 2回、中止 1回

参加者 47名（大人 35名 子ども 12名）指導員 11名

＜振り返り＞

2月野鳥、7月昆虫、10月どんぐりと季節のテーマで実施し、熱中症対策、雨天対応などを踏まえ当初から室内プログラムを組み込んだ内容とした。10月については応募者0で中止となり、広報等に課題を残した。

（６）その他

① 検見川ビーチフェスタ（千葉市緑政課）

実施回数 2回

参加者 約650名 指導員 16名

＜振り返り＞

千葉市主催の地域イベントへの出店を求められ、5月は検見川浜の生き物展示、生き物ビンゴ、ヤドカリ競争など、9月はどんぐりコマ作り、どんぐり流し、ドングリ落としゲーム、竹ぼっくりなど、会員それぞれの得意分野を持ち寄る形で複数の展示内容とし、多くの参加者で賑わった。長時間のテント展示への対応として担当時間を分担するなどの工夫を行った。

②なりたの森あそび（ちば里山センター経由依頼）

実施回数 2回（11月）

参加者 小学生88名、指導員 11名

＜振り返り＞

雨の予報で2校とも室内で実施。事前に用意した落ち葉の山で葉っぱとふれあい、ダイナミックに遊ぶ。ドングリ、落ち葉、枝を使ったものづくりにも挑戦、室内でも十分に秋の自然を体感、どの子も満足気であった。

８．研修関係

実施回数 実施 1回（ 7月）

テーマ「すべての子どもに自然を！～幼児期の自然体験がもたらすもの～」

場所 千葉公園および千葉市生涯学習センター 講師 藤井徳子氏（金沢学院大学准教授）

参加者 31名、スタッフ: 4名

＜振り返り＞

午前中は千葉公園での実地研修、午後は休憩をはさんで座学講座と中身の濃い研修になった。藤井先生が富山森のこども園で実施しているプログラムを参加者は子どもの気持ちになって体験した。幼児向け自然学習の創意工夫がたくさんあり。楽しい体験でとても勉強になった。またご自身のドイツでの子育て経験なども交えながらの講座では、幼児時期の自然体験の大切さを知ることができた。今後の自然観察会や SSN 活動にも生かしたい。

９．企業・団体関連

（１）（公社）千葉県緑化推進委員会

① 緑の募金による森と緑に親しむ活動支援

実施対象 3か所（松戸市2カ所、東金市）

＜振り返り＞

いずれも地域住民を対象とした緑の募金による支援にふさわしい特徴的な活動で、参加者も多数だった。

② 「みどりの教室」

実施回数 1回（ 11月）

場所 緑化推進拠点施設 晝間講師、指導員スタッフ2名

参加者 11名

＜振り返り＞

幼稚園や保育園の先生方を対象とした研修会で、初めて秋に開催された。拾い集めた落ち葉やドングリを使って、野外と室内で体験実習。幼児期の自然体験の意義、安全性の確保についても説明、確認をした。

③校外学習支援

実施回数 1回 （11月）

参加者 小学1年生190名 指導員 5名 森林インストラクター5名

＜振り返り＞

袖ヶ浦市「緑化推進拠点施設」において、雨天となったが、近隣の蔵波小1年生190名が少人数のグループに分かれて実施。広い構内にある8つの自然体験プログラムを自由に回って体験、秋の自然を全身で感じる楽しい活動となった。

（2）八千代市の保育園（ChaCha Children Yachiyo）

①自然遊び（ネイチャーウォーク）

実施回数 3回

幼児 77名 保育士 13名 指導員9名

②保育園職員向けの自然観察研修

実施回数 1回 （1月）

参加者 13名 講師：晝間

＜振り返り＞

冬・初夏・秋の八千代台北子どもの森で、五感を使って自然とのふれあいを楽しんだ。自然物を見つけたり遊んだりする活動はわくわく感があり大いに盛り上がった。後日、保育士対象の研修会を実施、身近な自然素材で遊びを体験、自然遊びの必要性を伝えるよい機会となった。

１０．ＳＳＮ関係

年間活動実績 （2024年１月～12月まで）

実施回数 50回 中止2回

参加児童 2,854名 指導員延べ 194名、協力者延べ92名

＜振り返り＞

2024 年の SSN 活動は昨年度同様、活発に実施することができた。学校によっては生徒数が 4 クラス以上のクラスもあり、観察会の実施方法を工夫しておこなう学校もあった。また、猛暑日の影響により、観察時間を短縮するなどの対応がとられた学校もあり、生徒の水分補給や体調管理などにも特に気を使った。

１１．しおかぜ発行

発行回数 6回(226～231号) 印刷・発送はすべて外注

編集担当 勝股 太田 三嶋 高木

イラスト 梅宮 中田⇒小坂に5月号から交代

しおかぜ印刷・発送の外注先：正文社（千葉市）

＜振り返り＞

観察会の掲載は季節によりページのばらつきはあるが、季節に合わせたテーマの投稿があり、子どもたち家族連れの楽しい記事が掲載できている。9月号に創立40周年記念 しおかぜ別冊号を発送。10月から郵便料金値上がりにより発送料金の値上げが心配されているが 今のところ現状維持で発送できている。

１２．その他

メールマガジン

発行回 12回(42～53号)

編集担当 伊藤

＜振り返り＞

毎月1回月初めに会員200名余に配信し、行事予定の詳細を記載するとともに、当日（応援）スタッフの呼びかけを強調する編集とした。なお、新会員の自己紹介に注力し、多くの会員の人となりを知る機会となった。

またコラム（会員の広場）を添付し、会員間コミュニケーションの醸成を図った。コラムは自然観察ちばＨＰにも掲載している。 会員向けの編集内容としていることもあり、会員外への配信については踏み出さなかった。

１３．月例会 （第3土曜日）

実施回数 12回 (ZOOM11回 千葉1回)

参加人員 146 名

2025年度事業計画

１．総会

2月11日（火・祝）、千葉市生涯学習センターで実施する。
講演会、懇親会、特別観察会（千葉県立中央博物館・生態園）を実施する。

２．指導員講習会

10月18日（土）～19日（日）、昭和の森（フォレストビレッジ）で開催する予定。
従来、共催してきた千葉県が抜け、NACS-Jと自然観察ちばの共催となる。

３．昭和の森

（1）昭和の森定例観察会 第2日曜日

毎月第2日曜日午前10～12時、8月を除いて年11回実施する(7月は室内)。
毎回定員は25名程度で公園管理事務所が先着順で申し込みを受け付ける。
当日の受付は昭和の森管理事務所（指定管理者） 指導員は2人体制

（2）昭和の森親子田んぼ教室

4月（田植え）、6月（草取り）、9月（稲刈り）の3回実施する。
定員は親子で20名程度 受付は昭和の森管理事務所（指定管理者） 指導員は3人体制

（3）昭和の森カタクリ特別観察会

昭和の森管理事務所より委託を受け、3月22・23・24・25日の4日間実施する予定。

４．大草谷津田いきものの里自然観察会 第3日曜日

毎月第3日曜日実施
午前10時30分～12時 夏季（7月～9月）は午前9時30分～11時
毎回定員は30名、受付は千葉市環境保全課 指導員は2人体制
※千葉市環境保全課と令和7年度実施要項の調整を進めている。

５．東葛しぜん観察会 ＜山口・三嶋＞

東葛の活動は、一般観察会11回、研修会3回、パークプロジェクトで講座4回を予定。研修会については、外部講師1回、内部講師1回、県外への一泊バス研修を予定している。パークの 小学校の校外学習支援も引き続き要請されるものと想定。

６．行政関連

（1）**千葉市ふれあい観察会**（千葉市環境保全課自然保護対策室）
年2回を予定（9～12時）
（2）**稲毛海浜公園自然観察会**(千葉市中央・美浜公園緑地事務所)
年4回を予定（10～12時）
（3）**船橋市自然観察会**（船橋市環境政策課）
年2回を予定（9時30分～12時）
（4）成田市自然観察会(成田市環境計画課)
年3回を予定（9時30分～12時）
（5）**花島公園観察会**（千葉市花見川・稲毛公園緑地事務所）
年3回を予定（10～12時）
（6）**緑の募金による自然に親しむ事業**（千葉県緑化推進委員会）
3団体（3か所）の支援を予定

７．研修関係

昨年計画をしていた新人向けの研修交流会を実施することができなかったので今年こそ実施したい。どのようなニーズがあるか、研修担当や役員で話し合って内容を決めていきたい。

８．企業・団体関連

依頼内容に応じて、実施する。

９．ＳＳＮ関係

小学校は3学期に入り、学年最後の自然観察会が実施されている。引き続き学校の要望に応えながら対応していきたい。また、今後は各地域のSSN担当間の情報共有などの場も作っていきたい。

１０．しおかぜ発行・自然観察ちばHP

編集：勝股、太田、三嶋、高木、菅澤 5人
表紙イラスト：梅宮、小坂 2人
印刷・発送：外注予定 ＜外注先：正文社（千葉市）＞
掲載原稿の送信先アドレス：genkou@sizen-chiba.lolipop.jp、ロリポップ！WEBメーラーからダウンロード

１１．その他

メールマガジン

行事予定、会内外の研修会・講習会の詳細を記載し、会員間コミュニケーションの醸成を図るコラムとあわせ、引き続き月初めに会員に配信する。なお、コラムについては、HPに事前掲載しそのURLを案内する形に移行する。

１２．月例会

ZOOM会議を原則とし、必要に応じて千葉市中央コミュニティセンターで実施する。